

第5章

東京の魅力を担う池袋副都心の再生方針

第1 池袋副都心の再生方針の構成

池袋副都心は、首都機能の一翼を担う拠点であるとともに、豊島区にとっては地域全体の経済や文化を牽引する存在でもあります。

区では、平成12（2000）年に策定した都市計画マスタープランにおいて、「訪れる多くの人々にとって快適で安全な魅力ある舞台を提供し、都市生活を演じてもらえる『劇場都市空間づくり』」をめざしてきました。

また、平成22（2010）年には、「池袋副都心整備ガイドプラン」を策定し、都市づくりビジョンを策定するまでの間、池袋駅周辺の交通環境が大きく変化する機会にあわせて、人や環境を優先できる都市への転換を推進するために、「文化と活力、みどりにあふれ新たなチャレンジの舞台となる『まち』池袋」を掲げ、まちづくりに取り組んできました。

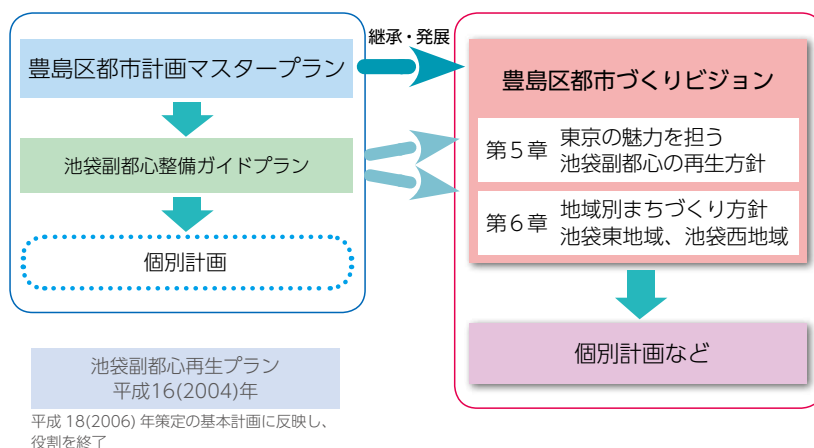
その後、平成27（2015）年に、池袋駅周辺地域が特定都市再生緊急整備地域の指定を受けたことで、国際競争力強化に向けた、公民連携による都市再生の動きがより活発になっています。

また、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催、豊島区本庁舎の完成や庁舎跡地の活用、民間による都市開発の動きなど、池袋副都心の都市づくりを取り巻く環境は大きく変化しています。この変化に的確に対応するため、これまでの計画を踏まえつつ、池袋副都心の都市づくりの基本的な考え方を「東京の魅力を担う池袋副都心の再生方針」として示します。

第5章は、第4章において示した8つの都市づくり方針を「池袋副都心の再生」の視点から再構成します。また、第6章の地域別まちづくり方針では、池袋副都心を池袋東と池袋西の二つの地域に分け、地域の視点に立ったまちづくり方針を示します。

今後、都市づくりビジョンに基づき、必要に応じてまちづくりのガイドラインや個別計画などを策定します。

図表118 池袋副都心再生に関する計画の策定イメージ



図表119 8つの都市づくり方針の再構成イメージ

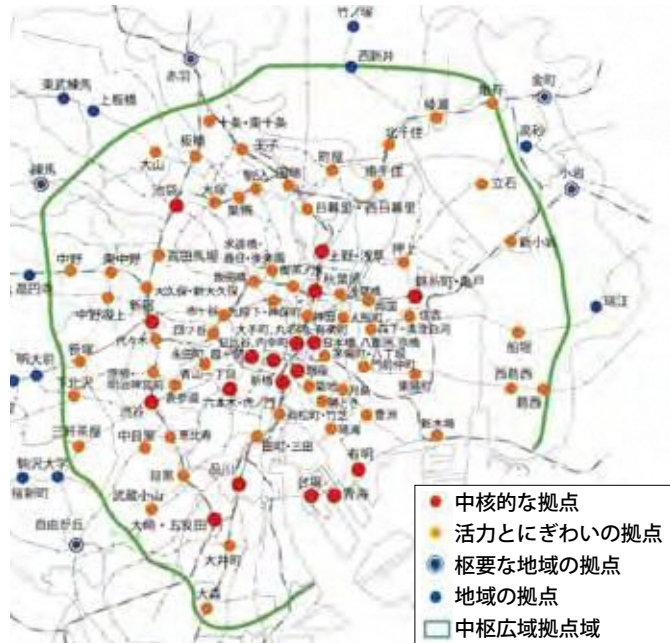


第2 東京における池袋副都心の位置づけ

中枢広域拠点域内の中核的な拠点は、鉄道ネットワークの高い結節性を持ち、広域的な観点から、高度な都市機能の集積を促進していく拠点です。

池袋は、新宿、渋谷、大崎・五反田、品川、秋葉原などとともに中核的な拠点に位置付けられ、基幹的な交通結節機能の確保、都市基盤の再編、民間開発の事業化を一体的に進め、業務、商業、文化、交流など多様な機能を集積させていく拠頭に位置付けられています。

図表120 中核的な拠点等のイメージ



資料：都市計画区域マスタープラン（令和3（2021）年3月）

■ 中核的な拠点

大手町、丸の内、有楽町、日比谷、内幸町、永田町、霞ヶ関、日本橋、八重洲、京橋、銀座、新橋、新宿、渋谷、池袋、大崎・五反田、上野・浅草、錦糸町・亀戸、有明、台場、青海、品川、秋葉原、羽田、六本木・虎ノ門

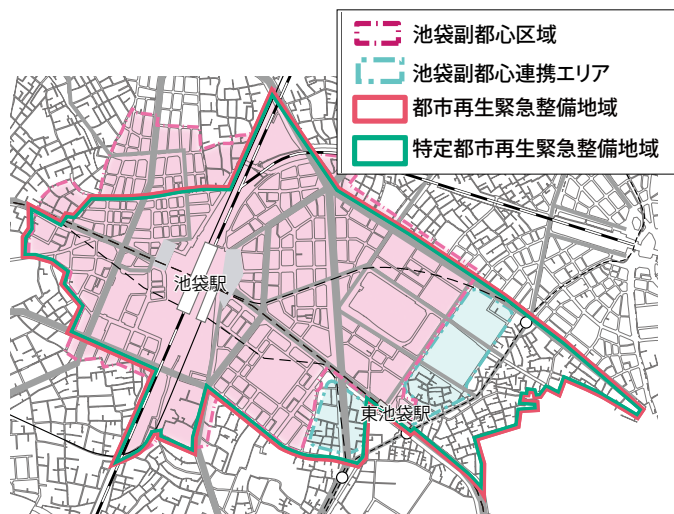
第3 池袋副都心区域の考え方

池袋副都心区域は、東京都の「新しい都市づくりのための都市開発諸制度活用方針⁷⁹⁾」（令和2（2020）年12月）に示されている池袋中核的な拠点地区及び中核的な拠点周辺地区の範囲を基本とします。

これに、豊島区本庁舎や造幣局跡地などの地区を「池袋副都心連携エリア」として加え、池袋副都心として一体的な都市づくりに取り組みます。

また、今後の都市づくり動向にあわせて、必要に応じて範囲の見直しを検討します。

図表121 池袋副都心区域と池袋副都心連携エリア



79 新しい都市づくりのための都市開発諸制度活用方針：東京都が「東京の新しい都市づくりビジョン」の将来像を実現するため、特定街区、再開発等促進区を定める地区計画、高度利用地区、総合設計の4制度の戦略的活用に向けた基本的な考え方や運用方針

第4 池袋副都心の変遷

図表122 池袋副都心の変遷

年代	主な鉄道・道路	主な商業・文化	
明治	36 (1903) 年	<ul style="list-style-type: none"> ・豊島師範学校創立 	
	42 (1909) 年		<ul style="list-style-type: none"> ・日本鉄道豊島線「池袋～田端」間開通、池袋駅開業
大正	元 (1912) 年	<ul style="list-style-type: none"> ・成蹊実務学校(現成蹊大学)創立 	
	3 (1914) 年		<ul style="list-style-type: none"> ・東上鉄道(現東武東上線)「池袋～田面沢」間(現川越駅付近)開通
	4 (1915) 年 7 (1918) 年		<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野鉄道(現西武池袋線)「池袋～飯能」間開通
昭和	3 (1928) 年	<p style="text-align: center;">豊島区誕生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池袋二業地許可 ・武蔵野デパート営業再開 ・シネマロサ、シネマセレサ、シネマリオ、シネマ東宝開館 ・東洋映画劇場、エトワール劇場開場 ・舞台芸術学院創設 ・西武百貨店開店 ・東横百貨店開店 ・人生横町誕生 ・公会堂落成 ・池袋東映劇場開場 ・文芸坐開館 ・三越百貨店、丸物百貨店開店 ・池袋、新宿、渋谷が副都心に位置づけ ・池袋マンモスプール開業 ・東武百貨店開店 ・池袋駅東口地下街開業 ・ロサ会館開業 ・池袋パルコ開店 ・西武美術館開館 ・サンシャインシティ開業 ・東急ハンズ池袋店開業 ・ホテルメトロポリタン開業 ・第1回国際演劇祭開催 ・第1回池袋演劇祭開催 ・東京芸術劇場開館 ・メトロポリタンプラザビル開業 ・ジュンク堂池袋本店開業 ・Echika池袋・Esola池袋開業 ・あうるすぽっと、中央図書館開館 ・アウルタワー開業 ・豊島区本庁舎完成 	
	7 (1932) 年		
	20 (1945) 年		
	21 (1946) 年		
	22 (1947) 年		
	23 (1948) 年		
	24 (1949) 年		
	25 (1950) 年		
	26 (1951) 年		
	27 (1952) 年		
	29 (1954) 年		
	31 (1956) 年		
	32 (1957) 年		
	33 (1958) 年		
	35 (1960) 年		
	37 (1962) 年		
	39 (1964) 年		
	43 (1968) 年		
	44 (1969) 年		
	49 (1974) 年		
50 (1975) 年			
53 (1978) 年			
55 (1980) 年			
59 (1984) 年			
60 (1985) 年			
63 (1988) 年			
平成	元 (1989) 年	<ul style="list-style-type: none"> ・首都高速5号線「池袋～音羽」間開通 ・地下鉄有楽町線「池袋～銀座一丁目」間開通(池袋駅開業)(S58:「池袋～成増」開通:要町駅、千川駅、小竹向原駅開業) ・サンシャイン通り、サンシャイン60通り完成 ・グリーン大通り完成 ・中央環状線新宿線開通 ・地下鉄副都心線「池袋～渋谷」間開通 ・環状6号線開通 ・東武東上線、西武池袋線・有楽町線、東京メトロ副都心線・有楽町線、東急東横線及び横浜高速みなとみらい線相互直通運転開始 	
	2 (1990) 年		
	4 (1992) 年		
	9 (1997) 年		
	19 (2007) 年		
	20 (2008) 年		
	21 (2009) 年		
	23 (2011) 年		
25 (2013) 年			
27 (2015) 年			
令和	2 (2020) 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ハレザ池袋グランドオープン 	